

2016 年度「研究者の横顔」 櫻木 範明先生

1. 研究者になろうとしたきっかけ

胎盤ホルモンの値の組み合わせで胞状奇胎に続発する侵入奇胎と絨毛癌の鑑別を行う研究を行ったこと。若い女性の子宮頸がんの予後が悪いことを実際に経験したこと。

2. 助成研究の内容紹介

若い女性の子宮頸がん検診受診率が低迷している理由は心理的、地理的、時間的なバリエーションがあるためです。海外では自己採取 HPV 検査の導入が子宮頸がんの検診を促すと考えられています。わが国においても自己採取 HPV 検査が有用であることを示したいと思っています。

3. 2 の将来に繋がる結果予想・目標

わが国の若い女性の子宮頸がん検診受診率が向上して前がん病変を発見・治療し、そのことで妊娠・出産年齢にあたる女性の子宮頸がんが減少することを期待しています。

4. 全国の RFL 関係者に一言

婦人科がんの特徴は若い人に多いことです。特に子宮頸がんの啓発活動への参画をお願いしたいと思います。